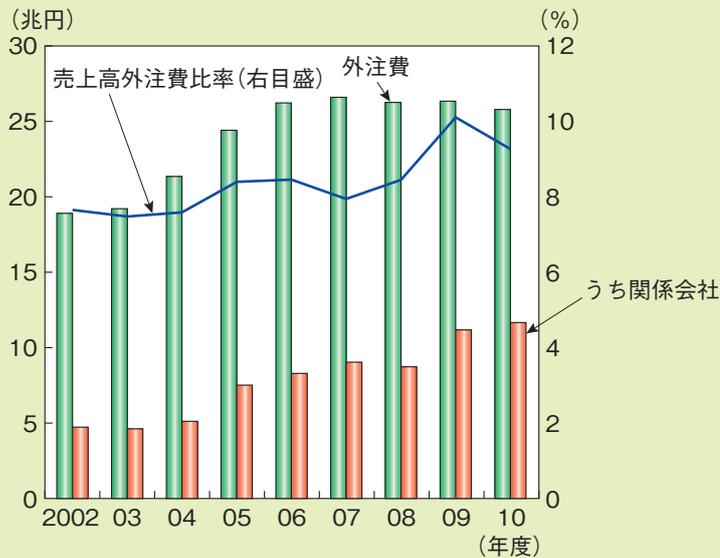


第2-1-14図 外注費の推移（製造業）

我が国製造業では外注費が増加傾向



- (備考) 1. 経済産業省「企業活動基本調査」により作成。
 2. 2009年度以降は製造委託と業務委託の合計額。
 3. 2010年調査時における調査項目の見直しにより、2009年度以降とそれ以前の値は接合していないため、2009年度以降の値については幅を持ってみる必要がある。

付加価値の低い部品の製造については内製化せず複数の企業にアウトソーシングを行っている³⁴。

以下では製造工程の外部委託全般を「アウトソーシング」と呼称し、統計データを用いて考察する。

●国内・社外アウトソーシングの実施割合が高い

我が国製造業のアウトソーシングの特徴を「企業活動基本調査」の個票データを使って更に詳しく見てみよう³⁵。

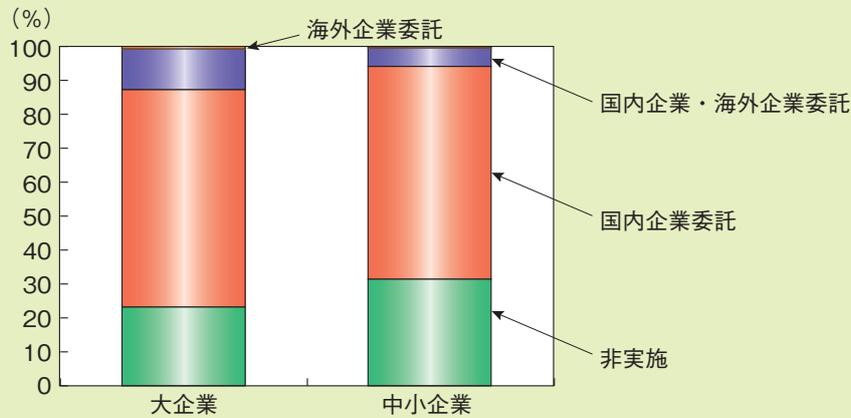
アウトソーシングを実施している企業の割合は、規模別に見ると³⁶2010年度には大企業で約80%、中小企業で約70%と非常に高い。そのうち、海外の企業だけに委託している企業はあまりなく、大部分の企業が国内企業に委託している（第2-1-15図（1））。また、国内企業向けアウトソーシングの内訳では、社外アウトソーシングが多い（第2-1-15図（2））。このように、我が国製造業では、国内にある自社とは関連のない一般企業に製造工程を委託することが多い。これは、日本型下請生産システムを映じたものであると考えられる³⁷。

- 注 (34) 例えば、アップルコンピューターのiPhone5では、ブラックボックス化した開発以外は、端末の製造工程の部品調達や組立だけでなくアプリ開発もアウトソーシングしている。
 (35) 「企業活動基本調査」では、製造委託について厳密な定義がなされているわけではないが、「営業費用（売上原価を含む）に計上した外注費、業務委託費等（類似のものを含む）のうち、製造委託の金額」として集計している。
 (36) 資本金3億円以上を大企業、3億円未満を中小企業とした。
 (37) 海外企業向けアウトソーシングは、海外従業員による技術漏洩などの問題もあり、障壁が高いと考えられる。

第2-1-15図 製造業のアウトソーシングと業種別の国内海外比率

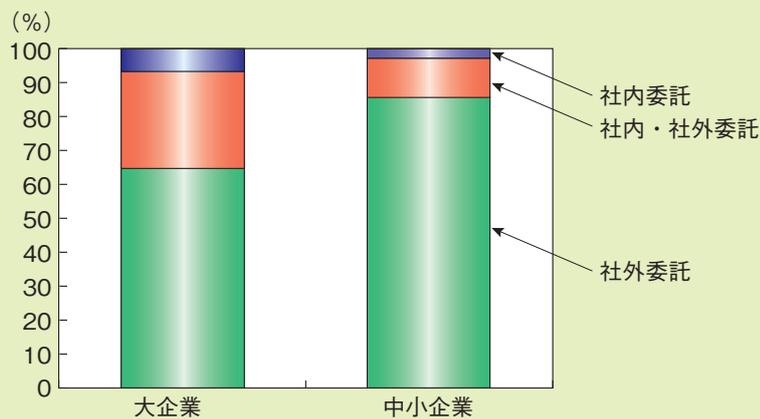
我が国製造業では、国内・社外製造委託を実施する企業の割合が大きい

(1) 国内・海外企業別アウトソーシング企業数

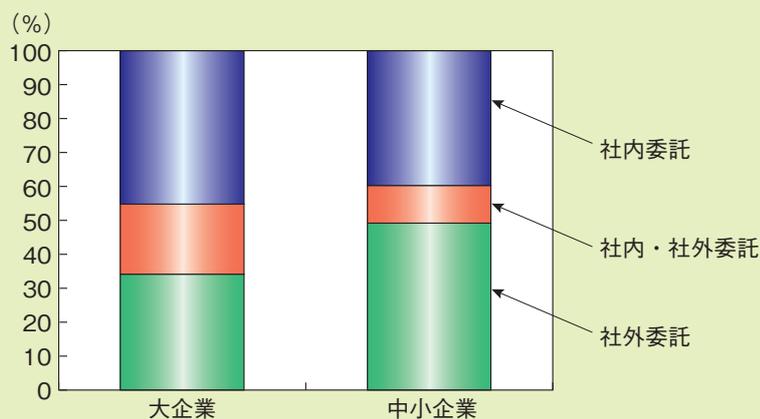


(2) 社内・社外別アウトソーシング企業数

(i) 国内企業向けアウトソーシング

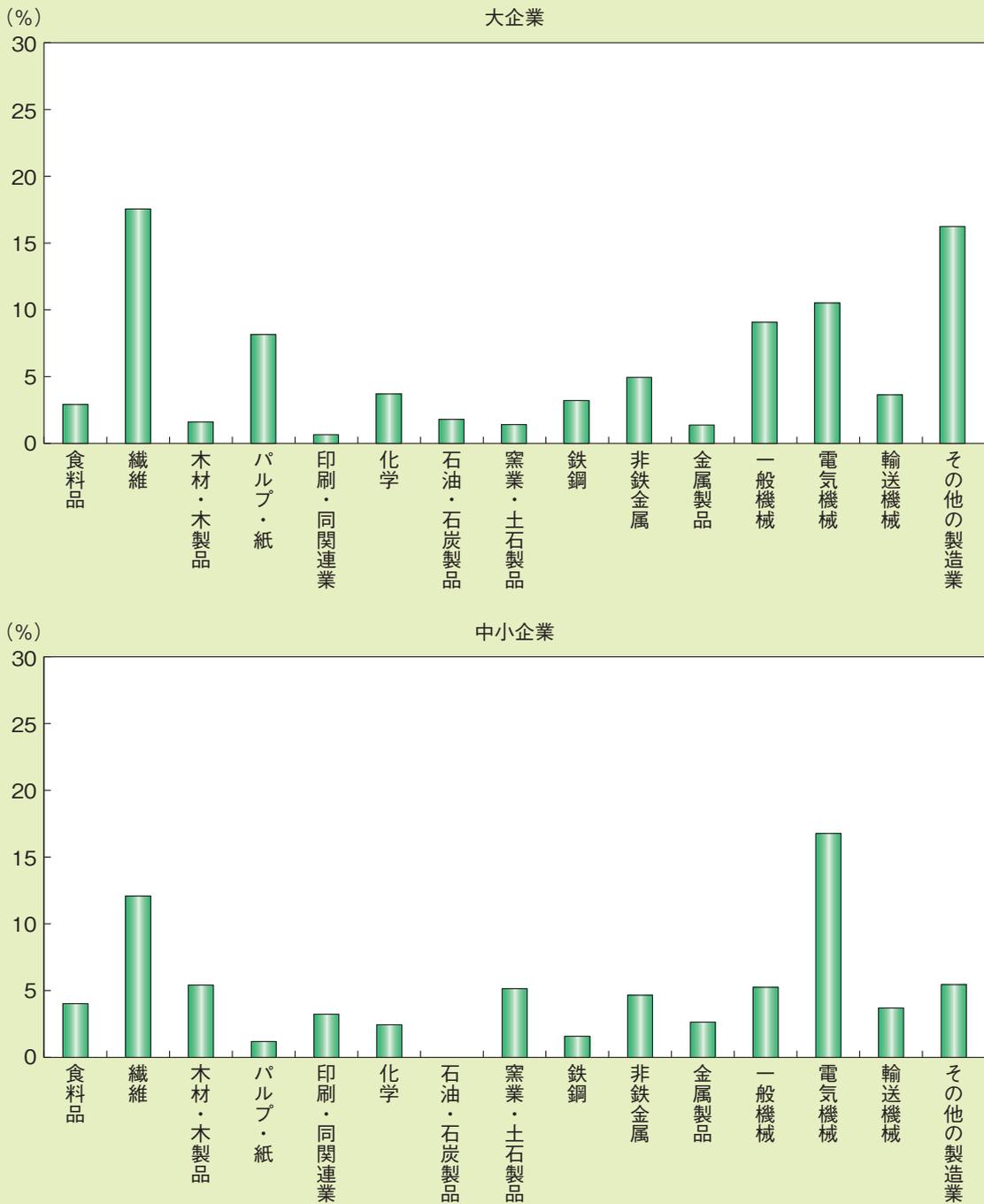


(ii) 海外企業向けアウトソーシング



- (備考) 1. 経済産業省「企業活動基本調査」の個票データにより作成。
 2. 資本金3億円以上を大企業、3億円未満を中小企業とした。
 3. 値は、2010年度のアウトソーシング実施企業のうち、各グループに分類される企業数の割合。

(3) 業種別国内海外比率 (2010年度)



(備考) 1. 経済産業省「企業活動基本調査」の個票データにより作成。
 2. 資本金3億円以上を大企業、3億円未満を中小企業とした。
 3. 「海外製造委託金額 / (国内製造委託金額 + 海外製造委託金額)」により算出。

一方、海外企業に対するアウトソーシングの特徴を見ると、大企業では、海外進出企業割合が高いため、海外子会社へのアウトソーシングの割合も高い。一方、中小企業では、海外の一般企業に製造工程を委託することの方が多 (第2-1-15図 (2))。また、業種別にアウトソーシングの国内/海外比率を見ると、いずれの業種でも国内企業向け比率が高い。海外企業

向け比率が高いのは、大企業・中小企業を問わず繊維や電気機械である。これらの業種では、早い時期から水平分業的な海外進出を行っていたことが影響していると推察される（第2-1-15図（3））。

●アウトソーシング実施企業のTFPは高い

それでは、アウトソーシングは企業の収益性や生産性を高めているのだろうか。製造業のアウトソーシング実施企業と未実施企業の間で売上高やROA、TFPなどを比較し、両者の収益性や生産性に違いが生じているかどうかを検証した。

これによると、アウトソーシング実施企業は、非実施企業に比べて、大企業、中小企業ともに売上高、従業員数、経常利益が大きく、TFPも高いが、ROAはほとんど変わらない（第2-1-16図）。このことから、アウトソーシング実施企業は、相対的に事業規模の大きい企業が多いが、生産性の低い部門をアウトソーシングすることによって全体としての生産性を高めていると考えられる。

他方、アウトソーシングの大部分を占める国内アウトソーシングは、収益性にはあまり影響を与えない可能性がある。アウトソーシングによって資産を圧縮することができるので総資本回転率は上昇するが、アウトソーシング先に外注費を支払うことで売上原価率が上昇して売上高利益率が低下した場合、ROAには大きな変化は生じないこともあると考えられる³⁸。

●アウトソーシング開始により生産性は上昇

我が国製造業では、アウトソーシングがROAの向上につながっているわけではないが、外部資源の活用によってTFPが向上するというメリットが発現している。

ここでは、製造業のアウトソーシング実施企業と非実施企業間のTFPの違いを詳しく見てみよう³⁹。以下では、2006年度、2010年度の2時点間のTFPの変化を見る。この2時点の継続回答企業⁴⁰のデータを用い、サンプルを製造委託の有無によって、①2時点で継続して製造委託を実施している企業（継続企業）、②2時点で製造委託を実施していない企業（非実施企業）、③2006年度には製造委託を実施していなかったが2010年度には製造委託を実施するようになった企業（開始企業）、④2006年度には製造委託を実施していたが2010年度には製造委託を停止した企業（停止企業）の4つのタイプに分け、それぞれの特徴を見る。

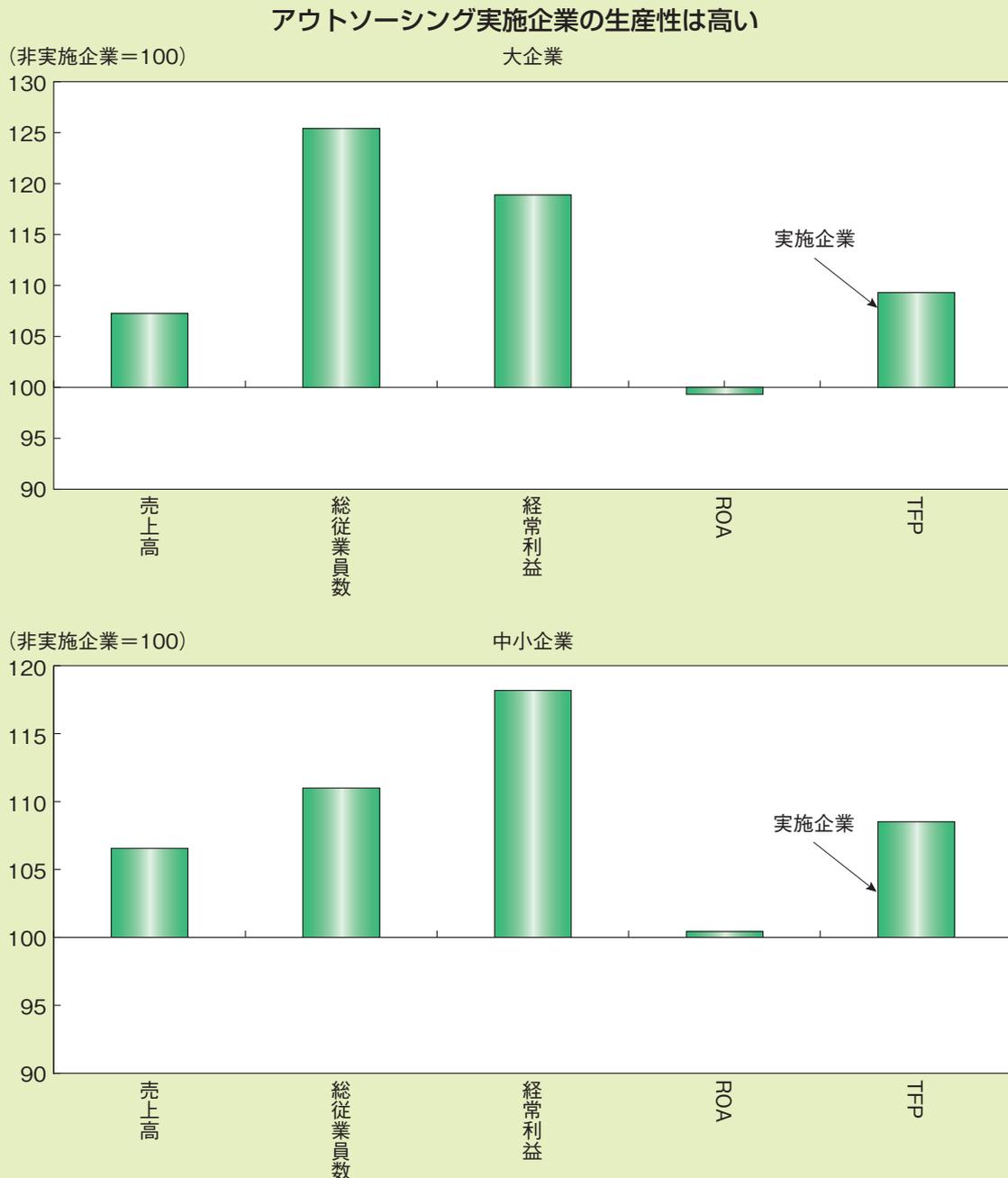
2006年度の非実施企業のTFP（中位値）を基準（=100）として、それぞれのタイプの企業のTFPの水準が2時点でどのように変化したか、見てみよう（第2-1-17図（1））。

注 (38) 例えば、元請企業は下請企業に外注することによって自社で生産するよりもコストが高くなる一方で、生産減少時の設備過剰を和らげることが可能となるなどのメリットがある。

(39) TFPの算出方法については、付注2-2を参照。稼働率や労働時間による調整を行っていないため、結果については相当程度の幅を持つ必要がある。

(40) 「企業活動基本調査」は、回収率85.4%（2012年度調査）であることから、毎年度、報告しない企業もある。そのため、調査対象年度の全てに報告している企業（継続回答企業）を抽出して、それらの企業の時系列変化を分析した。

第2-1-16図 アウトソーシング実施企業の特徴



- (備考) 1. 経済産業省「企業活動基本調査」の個票データにより作成。
 2. 資本金3億円以上を大企業、3億円未満を中小企業とした。
 3. 値は2010年度の中位数。TFPの算出方法については付注2-2を参照。
 4. ROAは経常利益を総資産で除した値。

企業のTFPの水準をタイプ別に見ると、継続企業と開始企業が最も高く、差はほとんどない。次に高いのは停止企業であり、非実施企業は最も低い。これは、規模別に見ても同様であり、アウトソーシング実施企業ほどTFPが高いことが分かる。

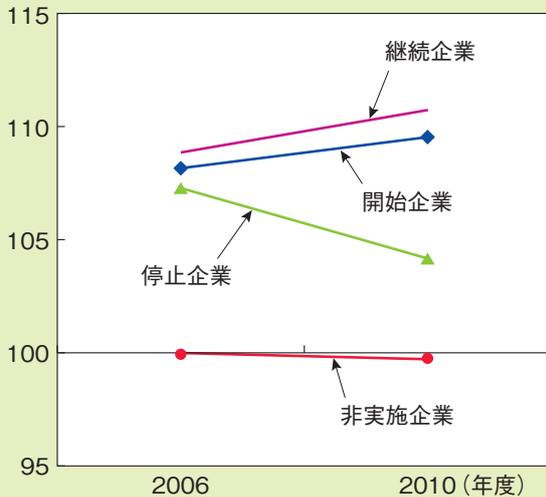
次に、製造工程のアウトソーシングの導入がTFPに与える影響を見るため、各々のタイプの2006年度の水準を基準 (= 100) として、変化を比較してみよう (第2-1-17図 (2))。

第2-1-17図 アウトソーシングがTFPに与える影響

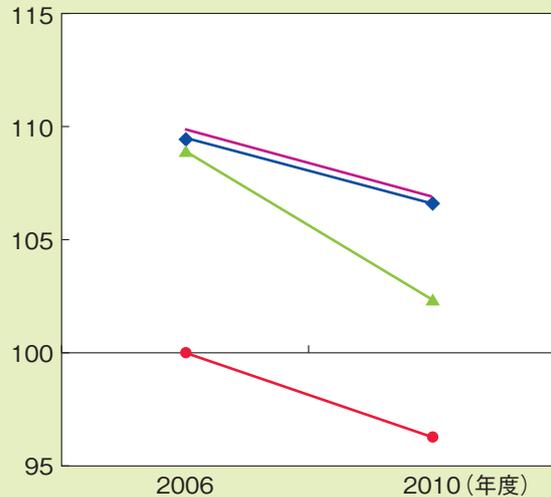
製造工程のアウトソーシングが生産性改善に寄与

(1) 水準比較

(2006年度の非実施企業=100) 大企業

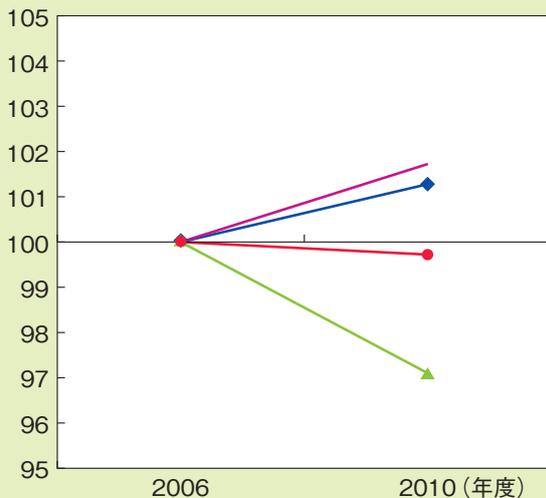


(2006年度の非実施企業=100) 中小企業

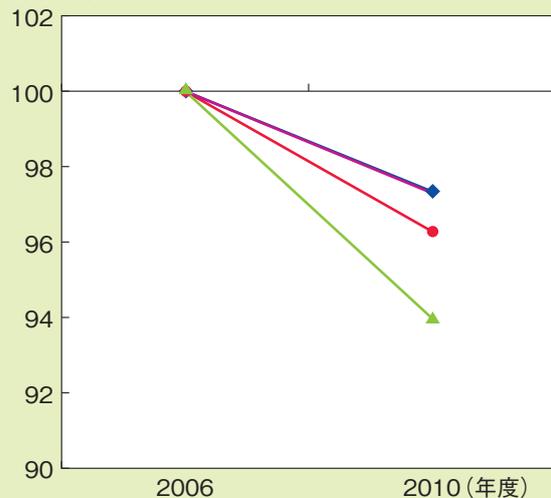


(2) 時点比較

(2006年度=100) 大企業



(2006年度=100) 中小企業



- (備考) 1. 経済産業省「企業活動基本調査」の個票データにより作成。
 2. 2006年度時点を基準に資本金3億円以上を大企業、3億円未満を中小企業とした。
 3. 2006年度と2010年度のアウトソーシング実施の有無により、企業をグループ分けした。
 4. 値はTFPの中位数。TFPの算出方法については付注2-2を参照。

まず、非実施企業と開始企業のTFPを比較しよう。大企業では、開始企業が上昇している一方、非実施企業は低下している。この二つの変化の差は、アウトソーシングを導入したことによって生じていると考えられるため、アウトソーシングによって生産性は上昇したと考えることができる。この結果から、アウトソーシングの導入は企業の生産性の改善に寄与している可能性が示される。

同様に、中小企業では、非実施企業よりも開始企業の方が低下幅は小さい。これは、アウト

ソーシングの導入によって、生産性の低下が抑えられたと考えられる。

このように、大企業、中小企業のいずれにおいても、開始企業は非実施企業に比べてTFPのパフォーマンスがよい。このことは、アウトソーシングの導入が、企業の生産性の改善に寄与していることを示している。

他方、継続企業と停止企業を比較すると、大企業では、継続企業は上昇している一方、停止企業は低下している。中小企業では、継続企業よりも停止企業の低下幅は大きい。この結果は、アウトソーシングを止めたことによって、企業の生産性が低下したことを示唆している。

●海外現地企業へのアウトソーシングにより生産性は向上

製造業企業においては、企業へのアウトソーシングは必ずしも収益性の向上につながらないが、TFPを高めることを確認した。

ところで、アメリカやヨーロッパの企業の中には、モジュール化の流れの中で、例えば、スマートフォンやタブレット端末の生産を台湾企業に委託するなど、海外子会社ではなく海外の現地メーカーにアウトソーシングを実施して収益性を高めている企業がある。このような海外現地企業へのアウトソーシングは、収益性や生産性にどのような影響を及ぼすのだろうか。我が国製造業の大企業を対象を絞って海外の社外企業にアウトソーシングを実施しているケースに注目して分析してみよう。

ここでは、海外の社外企業にアウトソーシングしている企業（海外・社外実施企業）と、その他の企業にアウトソーシングしている企業（その他実施企業）の差異について検証した。初めに、海外・社外実施企業は、その他実施企業よりも、売上高、従業員数、経常利益が大きい。また、ROAは低いもののTFPは高い（第2-1-18図（1））。

次に、海外の社外企業へのアウトソーシングの開始がTFPに与える影響を見るため、2009年度のTFPの水準を基準（=100）として、海外・社外開始企業とその他実施企業と変化の度合いを比較すると（第2-1-18図（2））、海外・社外開始企業の方が、TFPの上昇率は大きく、海外の社外企業へのアウトソーシングの導入がTFPの向上に寄与することが示唆される。

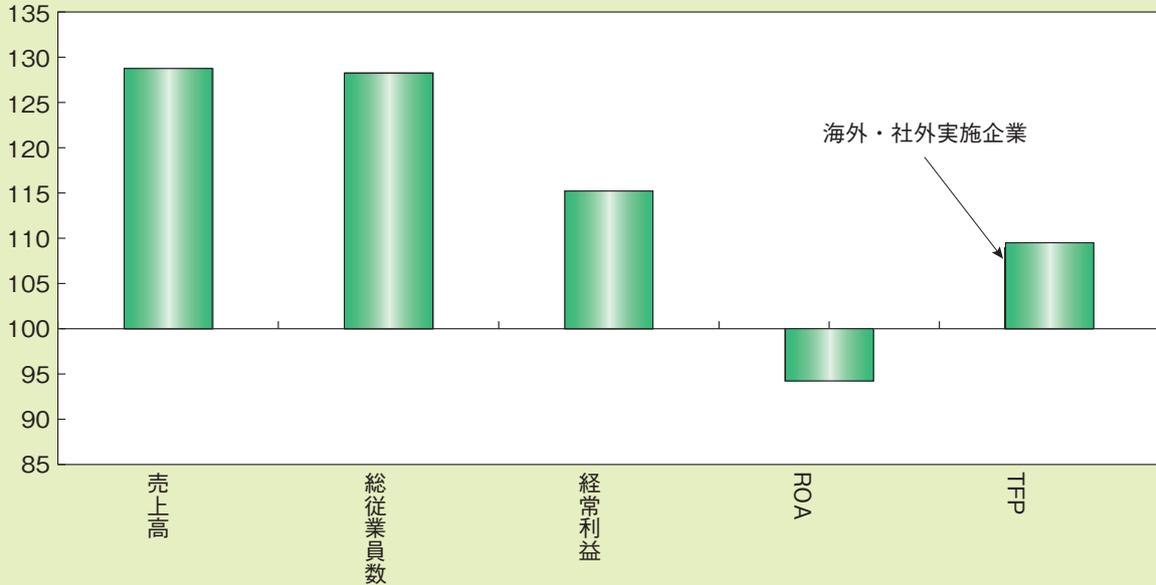
これまでの分析をまとめると、アウトソーシングの実施は企業の生産性を高める要因となっており、一方で、これを停止することで企業の生産性が低下してしまう可能性も示唆された。アウトソーシングを通じた自社外の生産要素、資源を効果的に活用することが生産性向上のカギを握ることが明らかである。また、海外・社外企業へのアウトソーシングは、他の形態のアウトソーシングよりも、生産性を高める効果も見られる。我が国製造業においても、海外の社外企業への製造委託の活用可能性を、一段と考慮すべきであろう。

第2-1-18図 海外・社外アウトソーシング実施企業の特徴

海外・社外アウトソーシングが収益性、生産性を高める可能性

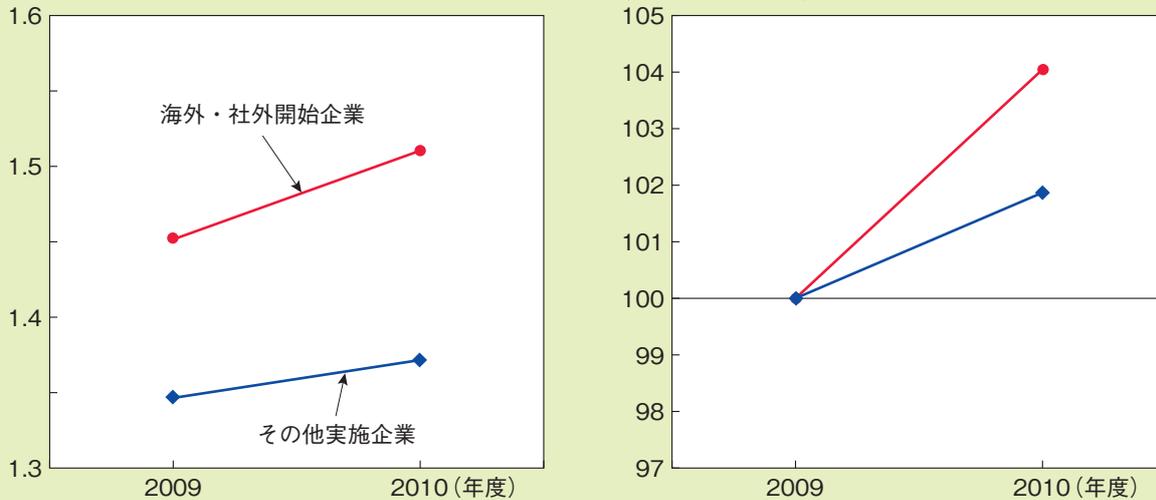
(1) 海外・社外アウトソーシング実施企業のプレミアム

(その他実施企業=100)



(2) 海外・社外アウトソーシング開始企業のTFP

(2009年度=100)



- (備考)
1. 経済産業省「企業活動基本調査」の個票データにより作成。
 2. (1)は大企業製造業を各グループに分類して、2010年度の中位数を比較。
 3. (2)は2010年、2011年調査の2時点の継続回答企業のうち、大企業製造業を各グループに分類してTFPの中位数を算出。
 4. 資本金3億円以上を大企業とした。(2)は2009年度時点で区分した。
 5. 「その他実施企業」は国内(社内・外双方含む)若しくは海外社内製造委託を実施している企業。
 6. ROAは経常利益を総資産で除した値。
 7. TFPの算出方法については付注2-2を参照。